

脳卒中・心臓病総合支援センターをハブとする多職種・地域連携の展開

京都大学医学部附属病院

脳卒中療養支援センター・もやもや病支援センター

宮本 享

京都大学

本発表に関して開示すべきCOIはありません

KU:IP



脳卒中・心臓病等総合支援センター事業と関連する研究班

令和5年度厚労科研費FA-18
回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究(主任研究者:宮本 享)

脳卒中WG

心臓病WG



脳卒中・心臓病等総合支援センター事業
採択府県における実態調査

日本脳卒中学会

日本脳卒中医療
ケア従事者連合

日本循環器学会

日本心臓リハビリ
テーション学会

第2期循環器病対策推進基本計画 概要

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備 循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃からの国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



脳卒中や心臓病等に関する世論調査

（令和6年7月調査）

2024年12月6日掲載

現代の日本の社会が、脳卒中を発症した後にも働き続けられる環境だと思うか？

「そう思わない」とする者の割合が77.1%

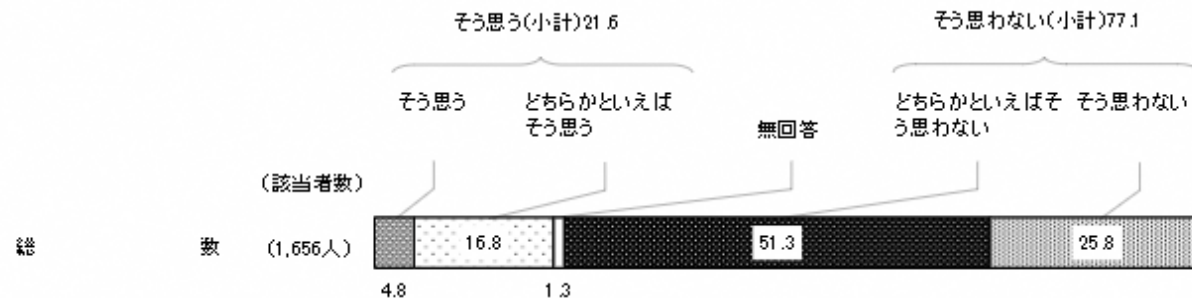
（3） 脳卒中を発症した後も働き続けられる環境だと思うか

現代の日本の社会が、脳卒中を発症した後にも働き続けられる環境だと思うか聞いたところ、「そう思う」とする者の割合が21.6%（「そう思う」の割合4.8%と「どちらかといえばそう思う」の割合16.8%との合計）、「そう思わない」とする者の割合が77.1%（「どちらかといえばそう思わない」の割合51.3%と「そう思わない」の割合25.8%との合計）となっている。

都市規模別に見ると、大きな差異は見られない。

性別に見ると、「そう思う」とする者の割合は男性で、「そう思わない」とする者の割合は女性で、それぞれ高くなっている。

図11 脳卒中を発症した後も働き続けられる環境だと思うか



令和4年度
医療機関における治療と仕事の両立支援に関する調査報告

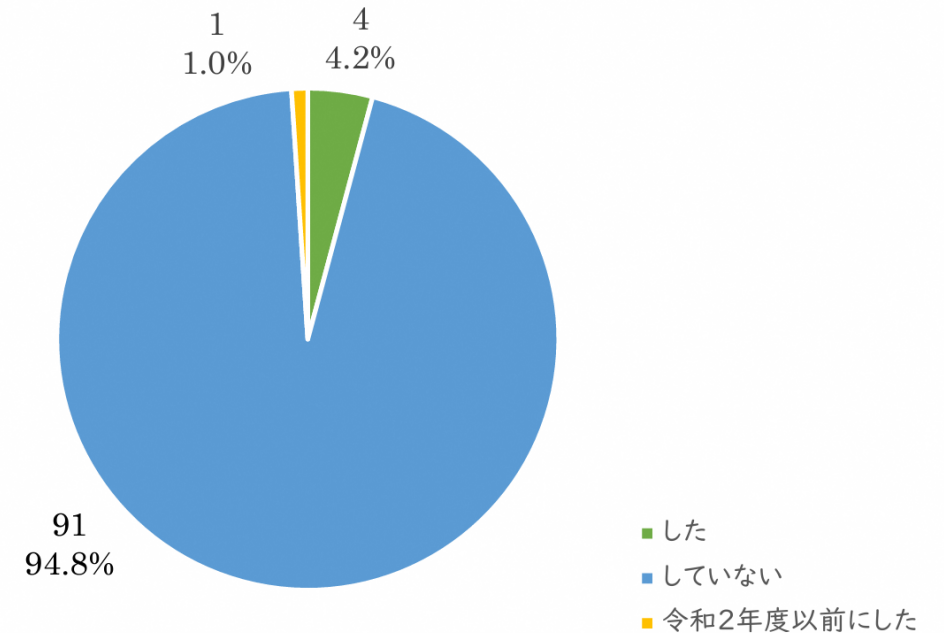
独立行政法人 労働者健康安全機構 広島産業保健総合支援センター

42 令和3年度において「療養・就労両立支援指導料」の評価を算定しましたか。

	回答数(件)	割合(%)
した	4	4.2
していない	91	94.8
令和2年度以前にした	1	1.0
合計	96	100.0

令和3年度「療養・就労両立支援指導料」の評価算定の有無

n=96



療養・就労両立支支援指導料はほとんど算定されていない！

両立支援調査2023

令和5年度厚労科研費FA-18

回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究(主任研究者:宮本 享)

● 対象府県

岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県 の7府県

● 調査内容

当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から直接自宅退院した脳卒中患者の復職率および両立支援の実施状況を調査

● 調査期間

2023年10月～2024年3月

フォローアップ期間:上記期間中の退院～6ヵ月後・18ヵ月後

● 期待される効果

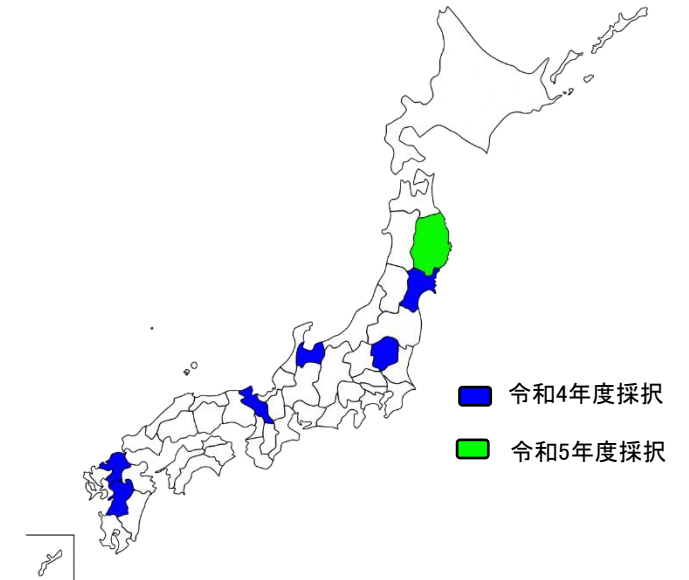
悉皆性のあるデータに基づいた 下記2点の把握

① 脳卒中後の復職率

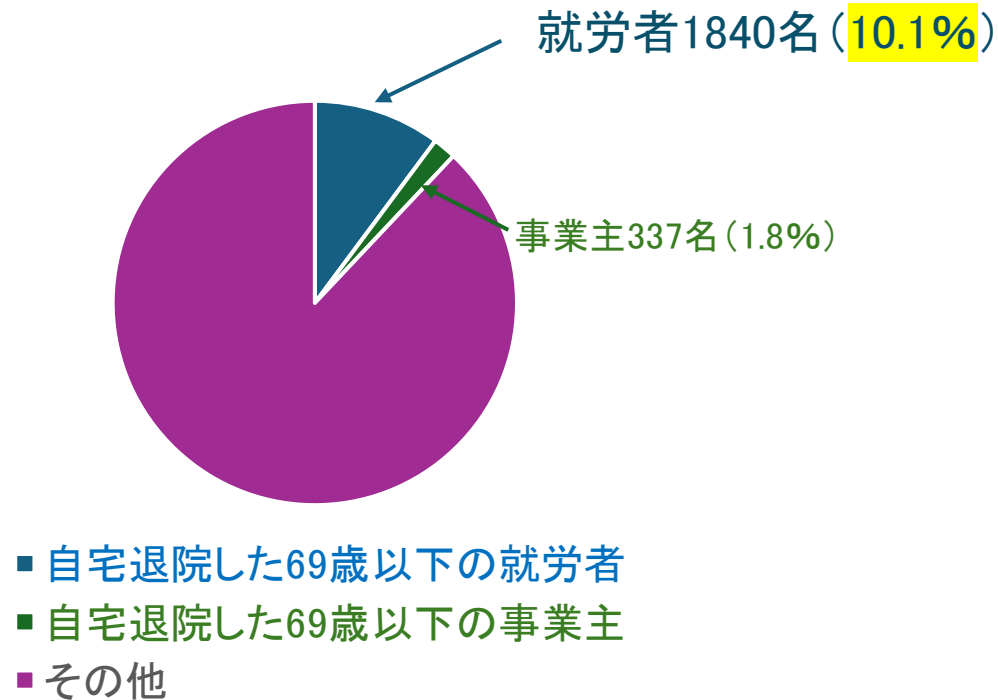
② 「療養・就労両立支援料」の現実(算定状況や算定困難な理由)

実働組織は

脳卒中相談窓口連携会議

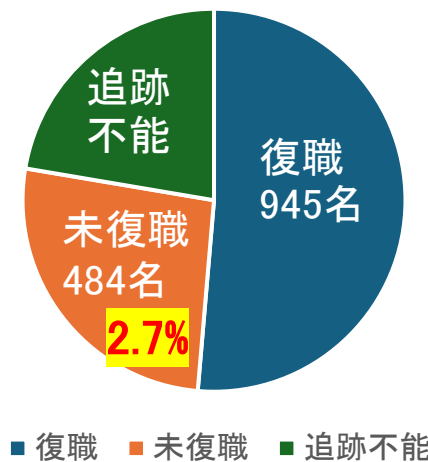


急性期脳卒中患者に占める 自宅退院・69歳以下の就労者



急性期脳卒中18235名

就労者1840名の退院6か月後の復職状況



退院6か月後の未復職者 : 急性期脳卒中の2.7%(約3%)
= 両立支援がまさに必要な対象
“ストライクゾーン”

PSC/回りハ脳卒中相談窓口における展開は 今後の課題

療養・就労両立支援指導料



治療しながら働く人を応援する情報ポータルサイト
治療と仕事の両立支援ナビ

診療報酬について

診療報酬改定のポイント

「療養・就労両立支援指導料」は平成30年度診療報酬改定において創設されました。両立支援をより充実させるよう、令和4年度診療報酬改定では前回（令和2年度改定）から4点の見直しを行いました。

①対象となる疾患の拡大

- (旧) 悪性腫瘍、脳血管疾患、肝疾患、指定難病
- (新) 悪性腫瘍、脳血管疾患、肝疾患、指定難病、心疾患、糖尿病、若年性認知症

②対象となる企業側の連携先の拡大

- (旧) 産業医、保健師、総括安全衛生管理者、衛生管理者、安全衛生推進者
- (新) 産業医、保健師、総括安全衛生管理者、衛生管理者、安全衛生推進者、衛生推進者

③情報通信機器を用いて行った場合の評価

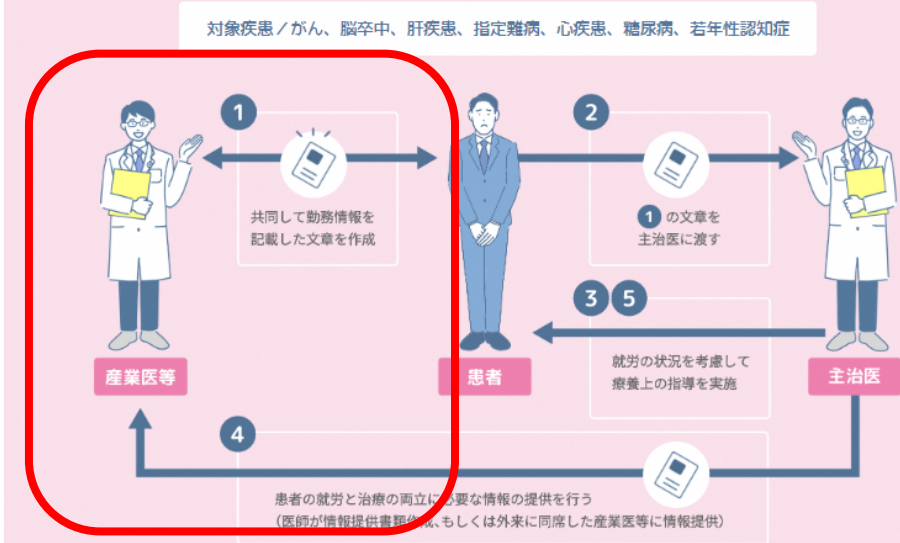
- (新) 初回 696点
- 2回目以降 348点

④相談支援加算の対象職種を追加

- (旧) 患者に対して、両立支援コーディネーター研修を修了した専任の看護師または社会福祉士が相談支援を行った場合の評価を新設
- (新) 患者に対して、両立支援コーディネーター研修を修了した専任の看護師、社会福祉士、精神保健福祉士又は公認心理師が相談支援を行った場合について評価

療養・就労両立支援指導料

- 企業から提供された勤務情報に基づき、患者に療養上必要な指導を実施するとともに、企業に対して診療情報を提供した場合について評価するものです
- また、診療情報を提供した後の勤務環境の変化を踏まえ、療養上必要な指導を行った場合についても評価されます



医療機関側だけの努力では算定できない

- ①患者と事業者が共同で勤務情報提供書を作成する
- ②勤務情報提供書を主治医に提出する
- ③患者に療養上必要な指導を実施する
- ④主治医が企業に対して診療情報を提供する(AもしくはBによる)
A) 患者の勤務する事業場の産業医等に対して、就労と治療の両立に必要な情報を記載した文書の提供を行う。
B) 当該患者の診療に同席した産業医等に対して、就労と治療の両立に必要なことを説明する。
※産業医等：産業医、保健師、総括安全衛生管理者、衛生管理者、安全衛生推進者、衛生推進者

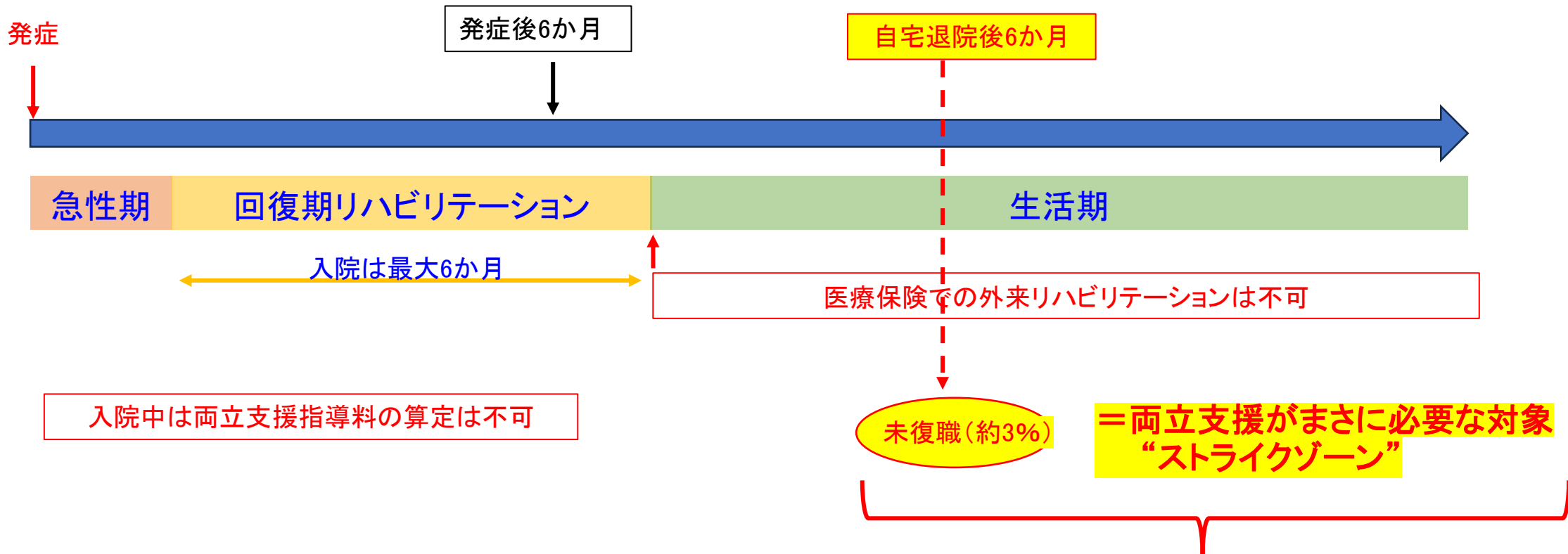
算定できる職種が限られている

- 2回目以降：400点（情報通信機器を用いて行った場合：348点）
- ⑤診療情報を提供した後の勤務環境の変化を踏まえ療養上必要な指導を実施する
※初回を算定した月から起算して3月を限度として、月1回に限り算定する

相談支援加算：50点

- 患者に対して、両立支援コーディネーター研修を修了した専任の看護師、社会福祉士、精神保健福祉士又は公認心理師が相談支援を行った場合について評価

そもそも入院中の支援では算定できない

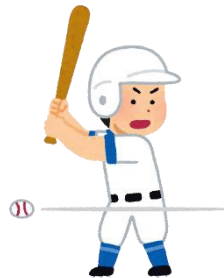


就労支援リハを行うPT/OT/STは
両立支援指導料の対象外



プレーに参加できません!

就労支援を目的としたリハビリテーションができない!



**ストライクのボールを
打つことができません!**

就労支援リハビリテーション調査

● 対象府県

脳卒中・心臓病等総合支援センターが設置されている11府県(岩手県+R4採択10府県)

● 調査内容

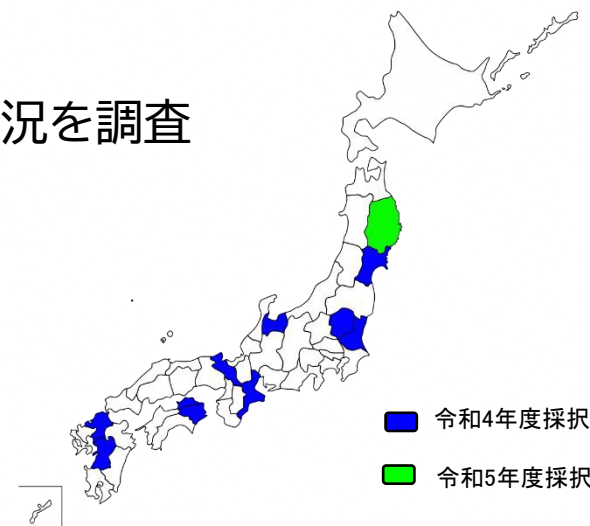
当該府県のすべてのPSCおよび回復期リハビリテーション病院から直接自宅退院した脳卒中患者に対するPT/OT/STによる就労支援リハの実施状況を調査

● 調査期間

2024年10月～2025年3月

● 調査協力

- リハビリテーションにおける職業訓練 日本理学療法士協会
- 作業療法による復職支援 日本作業療法士協会
- 失語症における復職支援 日本言語聴覚士協会



就労支援リハを必要とする患者数

指導料の対象外の職種によって、どの時期に・どれぐらいの頻度でどのような内容の就労支援が実際には行われているかを、悉皆性のあるデータで示す

全体目標

2040年までに3年以上の健康寿命の延伸及び循環器病の年齢調整死亡率の減少

個別施策

循環器病：脳卒中・心臓病その他の循環器病

【基盤】循環器病の診療情報の収集・提供体制の整備

循環器病の診療情報を収集・活用する公的な枠組みの構築

1. 循環器病の予防や正しい知識の普及啓発

- 循環器病の発症予防及び重症化予防
- 子どもの頃から国民への循環器病に関する正しい知識（循環器病の予防、発症早期の適切な対応、重症化予防、後遺症等）の普及啓発の推進
- 循環器病に対する国民の認知度等の実態把握

3. 循環器病の研究推進

- 循環器病の病態解明、新たな診断技術や治療法の開発、リハビリテーション等に関する方法に資する研究開発の推進
- 科学的根拠に基づいた政策を立案し、循環器病対策を効果的に進めるための研究の推進

2. 保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実

- ① 循環器病を予防する健診の普及や取組の推進
- ② 救急搬送体制の整備
- ③ 救急医療の確保をはじめとした循環器病に係る医療提供体制の構築
- ④ リハビリテーション等の取組
- ⑤ 循環器病の後遺症を有する者に対する支援
- ⑥ 循環器病の緩和ケア
- ⑦ 社会連携に基づく循環器病対策・循環器病患者支援
- ⑧ 治療と仕事の両立支援・就労支援
- ⑨ 小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策
- ⑩ 循環器病に関する適切な情報提供・相談支援

循環器病対策の総合的かつ計画的な推進の確保のために必要な事項

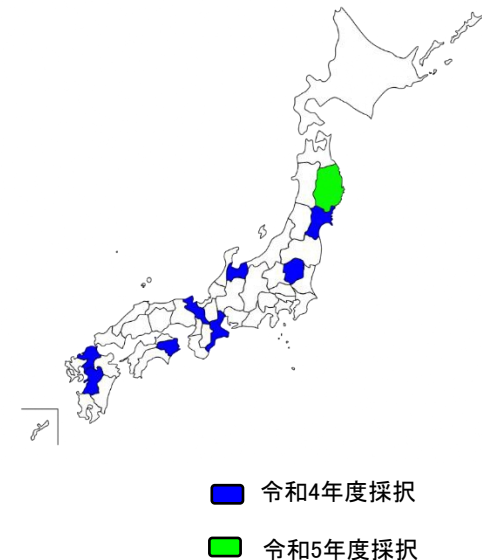
- (1) 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化
- (2) 他の疾患等に係る対策との連携
- (3) 感染症発生・まん延時や災害時等の有事を見据えた対策
- (4) 都道府県による計画の策定
- (5) 必要な財政措置の実施及び予算の効率化・重点化
- (6) 基本計画の評価・見直し

<循環器病の特徴と対策>



意思決定支援調査2024

- 期間 2025年1-3月
- 対象府県：総合支援センター事業が進捗している9府県
- 対象患者
PSC/回りハから自宅に直接退院した69歳以下の発病前就労患者
＝**自立した意思決定能力を持つ患者**



- 調査項目 右記の件数
 - ① 発病前のACPを確認できた患者数
 - ② 緩和と療養に関する意思決定を支援できた患者数
 - ③ ①②について、他機関と情報共有できた患者数

調査の目的： 意思決定支援とその地域連携が殆ど実施されていないという実態を明らかにする

- 調査行動の主体は、看護師を想定（当該県の**脳卒中連携看護師会議**が設立・稼働を開始）
- 調査により、**意思決定支援の重要性**についての脳卒中医療現場の意識を高める

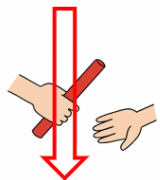
急性期病院

PSC



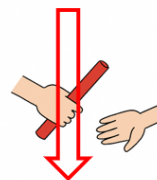
A病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



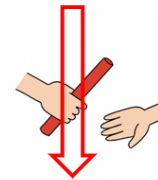
B病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)

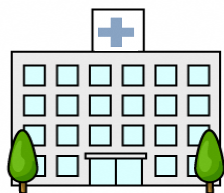


C病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



回復期病院



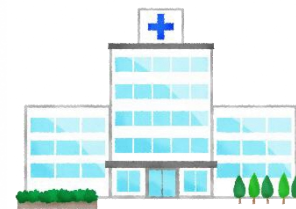
X病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



Y病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)



Z病院

脳卒中療養相談士
(MSW・看護師)

意思決定支援のバトンの共有

看護サマリーで伝えるべき内容についての 意識共有を開始

PSC 看護サマリーの記載内容に関する推奨

京都府脳卒中連携看護師会議

(2024 年 12 月 6 日)

京都府脳卒中連携看護師会議では、回復期リハビリテーション病院看護師を対象として行ったアンケート結果をもとに、看護サマリー・地域連携パス（急性期看護師頁）等に記載して、PSC 看護師から回復期リハビリテーション病院看護師に情報提供する推奨項目を以下のようにまとめた。

本推奨の目的は、PSC 看護師から情報提供する際に、情報を受け取る側には以下のようなニーズがあることを念頭に記載していくことを共通認識とすることである。

なお、本推奨項目の中には、看護師以外の職種が記載する紹介状・サマリーあるいは地域連携パスに記載されている情報もあるので、必ずしも重複して記載する必要はない。

各項目の細かな内容・記載方法・情報提供方法（地域連携パスに記載するのか、別途看護サマリーを作成するのか等）については、各施設に委ねることとする。

PSCから回復期リハ病院への転院にあたって、

看護サマリーや地域連携パス(看護師頁)に

記載する看護情報項目を標準化

PSC 看護サマリーの記載内容に関する推奨項目

情報の必要度 A：患者を受け入れる病床管理の観点から必須

情報の必要度 B：患者ケア・支援のために必要

1) 患者管理に関する情報

情報の必要度 A

- ① PSC で行われた治療の概要
- ② 転院直前の ADL
- ③ 合併疾患（継続が必要な治療等）
- ④ 医療行為（継続が必要な処置、頻度等）
- ⑤ 精神状態や問題行動とその対処法、ケア
- ⑥ 身体拘束の要否

情報の必要度 B

- ⑦ 服薬管理
- ⑧ 食事形態および必要とされるセッティングや介助
- ⑨ リハ内容
- ⑩ 退院指導

2) 発病前の患者情報（情報の必要度 B）

- ⑪ 発病前の ADL（患者本人の性格や生活の様子）
- ⑫ 発病前の就労状況
- ⑬ 発病前の ACP の有無

3) 病状についての理解・受容（情報の必要度 B）

- ⑭ PSC で行われた説明の内容
- ⑮ 患者本人の病状理解と受け止め方
- ⑯ 家族背景（主に説明を聞く人・主に世話をする人・患者に代わり意思決定する人等）
- ⑰ 家族等の病状理解と受け止め方

4) 今後の療養に関する希望（情報の必要度 B）

- ⑱ 今後の医療やケアに関する希望
- ⑲ 回リハ退院後の生活に係る不安や希望
- ⑳ 就労支援の希望

回復期リハビリテーション病院からの看護情報提供項目について

京都府脳卒中連携看護師会議
(2025年2月28日)

京都府医師会との連携で2024年度からシステマティックに進められている「脳卒中生
活期連携主治医制」のもとで、回復期リハビリテーション病院から自宅に退院した患者が
PSCのフォローアップ専門外来を受診することになるため、PSCの脳卒中相談窓口で患
者・家族等支援を行う機会が出てくるものと想定される。

このため、京都府脳卒中連携看護師会議では、回復期リハビリテーション病院からPSC
へのfeedback情報提供について希望する項目について、2024年12月にPSC看護師を対
象にアンケート調査を行い、その結果を以下のようにまとめた。

回復期リハビリテーション病院からPSCに対して、生活期脳卒中患者の相談支援のため
の看護情報を提供される場合には、今回の結果を適宜参考にしていきたい。

なお、下記項目には、他職種によるサマリーや連携パスなどに記載される内容も含まれ
ており、必ずしもすべてが看護師から提供されている項目ではない。

また、2025年1月に回復期リハビリテーション病院の看護師を対象として行われたアン
ケートでは、入院中の再発などでPSCに転院する場合等を除いて、回復期リハビリテーシ
ョン病院からPSCに看護情報をfeedbackすることはあまり行われていないとする回答も
少なくなかった。

このため、自宅退院した生活期脳卒中患者の相談支援を目的とした看護情報の共有につ
いては、PSCに対するfeedbackのみならず、生活期における訪問看護師・ケアマネジャ
ー・かかりつけ医に対する情報提供と重なる点が多いことを念頭において、今後引き続き
検討していく予定である。

回復期リハ病院から自宅退院する患者について

PSCへのfeedbackにあたって、

情報提供の希望がある看護情報項目についてまとめた

1) 退院時の患者情報

治療・リハビリ内容や服薬等、他職種のサマリーと重複する場合は、参照する書類（例：連携パス、リハサマリーなど）を参照する

- ① 回リハで行われた治療・リハビリテーションの概要
- ② 機能的自立度（FIM）
- ③ 退院後の生活（自宅退院・療養型病院・施設 など）
- ④ 社会支援の情報（障害者認定・介護認定・訪問看護など）
- ⑤ 退院後継続が必要な医療的ケア
- ⑥ 治療継続が必要な合併疾患
- ⑦ 服薬に関する問題点
- ⑧ 摂食・栄養に関する問題点
- ⑨ かかりつけ医情報
- ⑩ かかりつけ薬局情報
- ⑪ 地域包括支援センター / ケアマネージャー 事業所・担当者名
- ⑫ 退院後リハビリテーションに関する情報

2) 病状の理解・受容

- ⑬ 回リハで行われた説明（退院指導）の内容
- ⑭ 家族背景（主に説明を聞く人・主に世話をする人・患者に代わり意思決定する人等）
- ⑮ 患者本人の病状理解と受け止め方
- ⑯ 家族等の病状理解と受け止め方

3) 今後の療養に関する希望

- ⑰ 今後の医療やケアに関する希望
- ⑱ 回リハ退院後の生活に係る不安や希望
- ⑲ 就労支援の要否

脳卒中患者・家族等が視聴する「脳卒中の緩和と療養に関する啓発動画」が完成

【一緒に考えましょう、これからのこと～脳卒中相談窓口～】

第1話 ご本人とご家族とで一緒に考えるケース

第2話 患者さんのご意向を伺うことが難しいため、ご家族と一緒に考えるケース

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLmgIuznA6gk0hm3O2QJp6ai-Y89IFMZYP>

【脳卒中で入院した方・ご家族にお伝えしたいこと】

第1部 脳卒中の治療が始まりました

<https://www.youtube.com/watch?v=40rN0ZoFGnA>

第2部 脳卒中の治療、次の段階です

<https://www.youtube.com/watch?v=hKI8r2FJY7Q>

第3部 自宅退院に向けて

<https://www.youtube.com/watch?v=rkBl1bknAkg>

第4部 自宅での心得

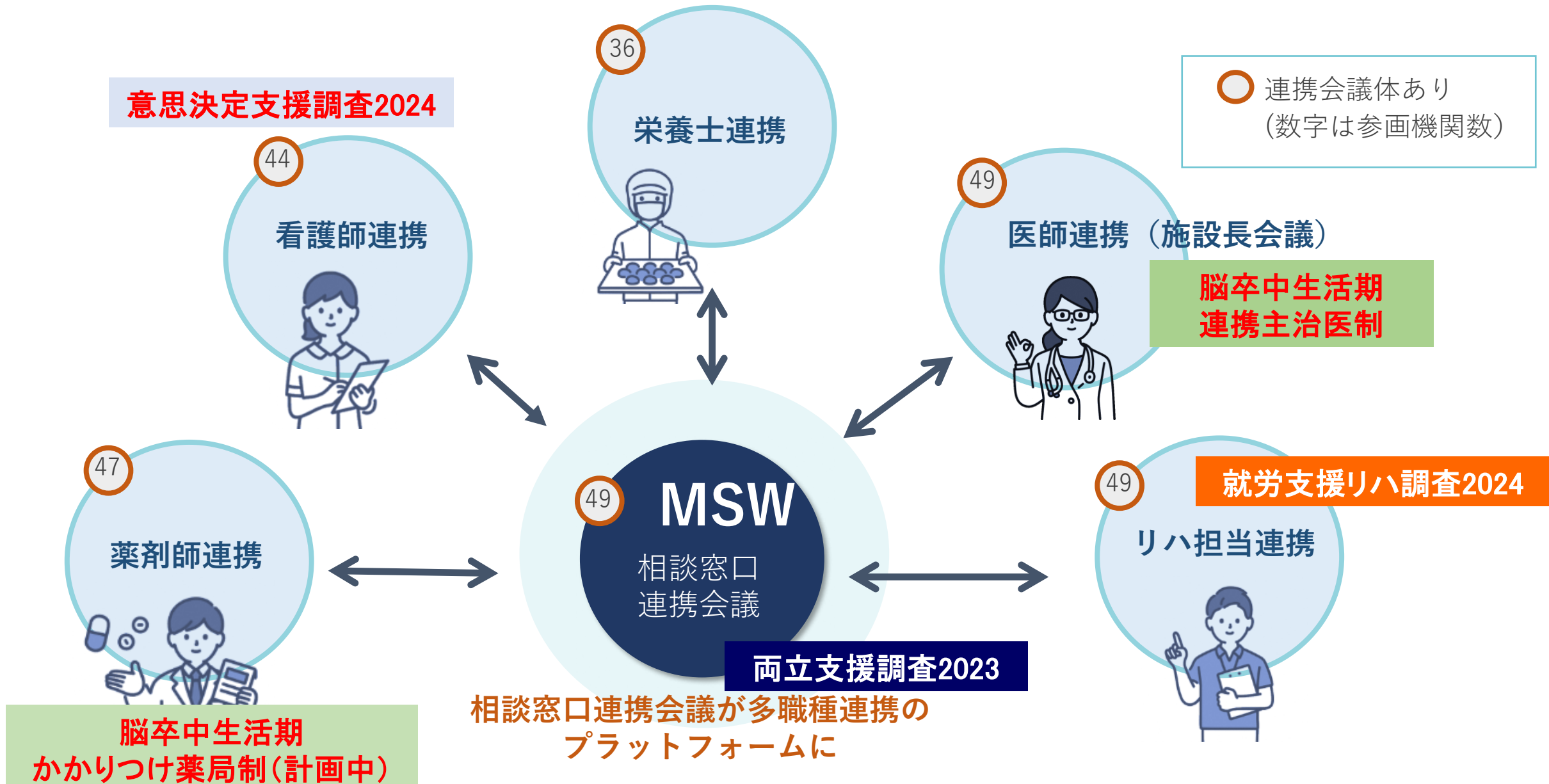
<https://www.youtube.com/watch?v=ELi5UPij-I>

第5部 続・自宅での心得

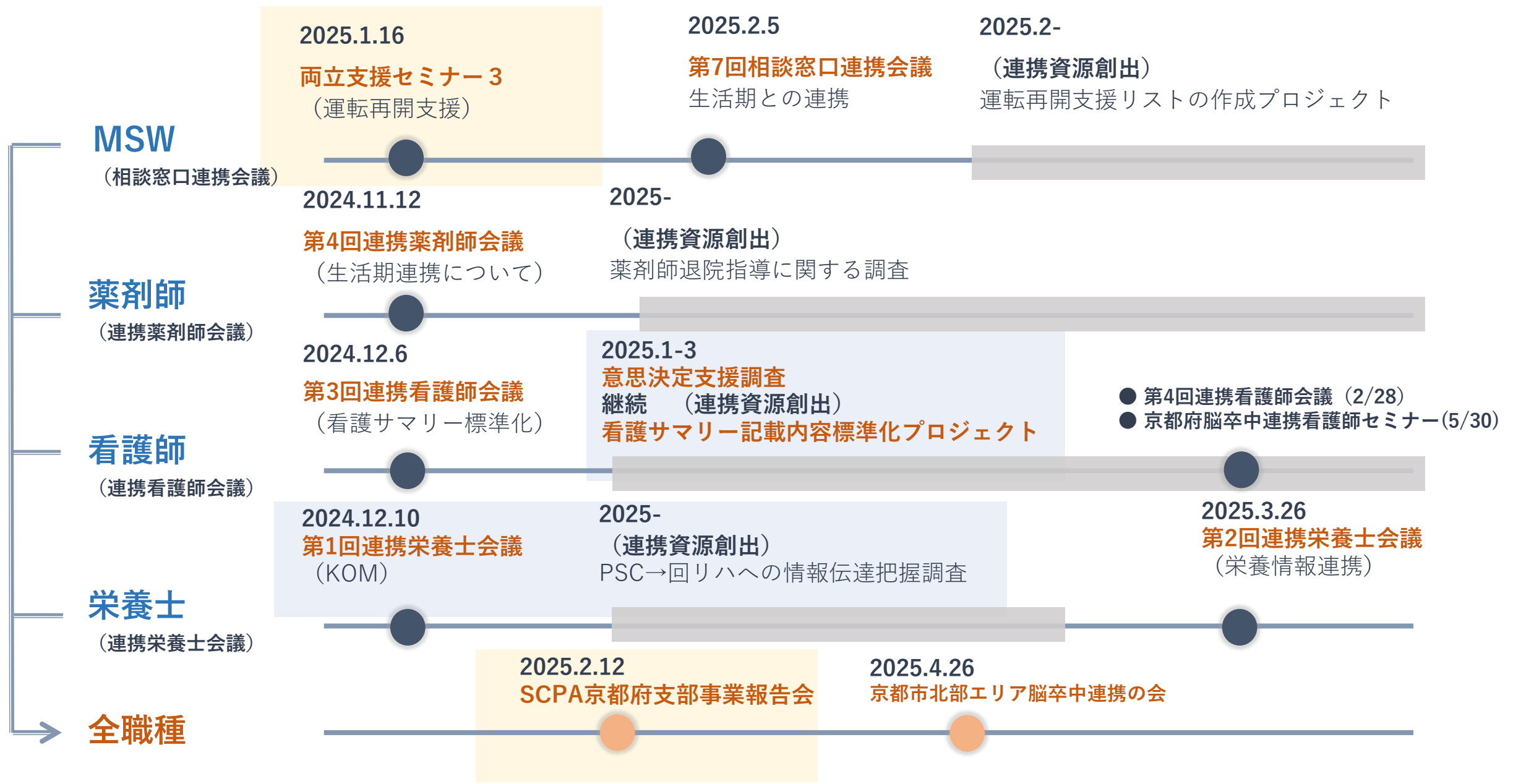
<https://www.youtube.com/watch?v=w-VczG5M7TY>



脳卒中相談窓口連携会議を軸とした各職種連携の展開（京都府）



脳卒中の患者・家族等支援にかかわる各職種の地域連携（京都府）



集合知

脳卒中生活期を見守る 情報ネットワーク



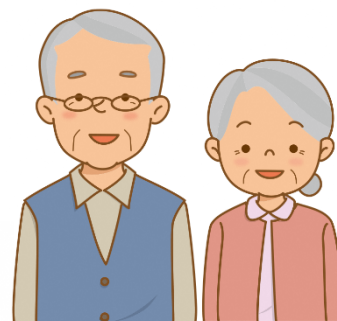
脳卒中生活期かかりつけ医



ケアマネジャー



脳卒中かかりつけ薬局



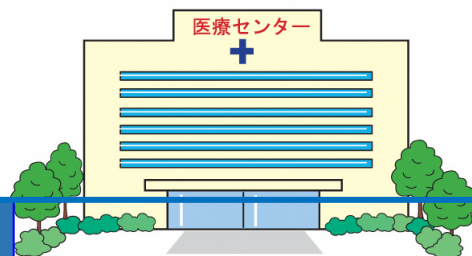
脳卒中
生活期
連携主
治医制



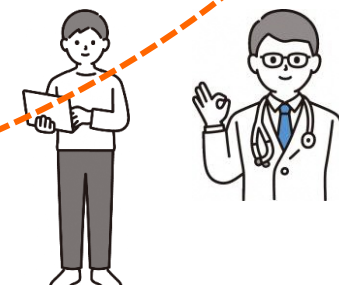
PSC脳卒中相談窓口



- 連携主治医制に基づく情報集約
(F/U専門外来・かかりつけ医・かかりつけ薬局)
- 脳卒中相談窓口連携会議で
共有されている支援情報の提供



回復期リハビリテーション病院





京都大学医学部附属病院
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL



Thank you for attention.

KU:P

京都大学医学部附属病院
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL



キャラクター

ももろうだよなかにゃくしてね!



ももろう

しゅぞく	くーぶろ
うまれ	おしだやま
すみか	クスノキ
せいかく	やんぢゅ
こうぶつ	どんぐり

